

地域連携推進会議 議事録

会議名	令和7年度 第1回地域連携推進会議
開催日時	令和7年7月28日(月) 10時から12時
場 所	あじさい園別館 女性棟リビング
参加者	構成員1(地域の関係者)、構成員2(福祉に知見のある方)、構成員3(利用者家族) 構成員4(男性利用者) 構成員5(女性利用者) 法人理事長、施設長、支援課長 計8名
添付資料	①レジュメ ②法人・あじさい園パンフレット ③あじさい園令和6年度事業報告書、令和7年度事業計画書
記録	施設長 井上朋子
<p>1, 開会</p> <p>2, 参加者自己紹介</p> <p>3, 会議趣旨説明(理事長)</p> <p>本会議は、運営が閉鎖的になるおそれのあるグループホームや施設入所支援を行う施設において、地域の関係者を含む外部の目を定期的に入れることで事業運営の透明性を図り、一定の質の確保につながるため介護分野の運営推進会議を参考に「地域連携推進会議」として令和7年度より義務化されました。</p> <p>具体的には①利用者さんと地域との関係づくり②地域の人への地域や利用者さんに関する理解の促進③施設サービスの透明性・質の確保④利用者さんの権利擁護といった目的を達成することが望まれています。</p> <p>委員の皆さまには、施設内の環境や、利用者さんの状況を見ていただき、様々な視点からお気づきになった点をお伝え頂きますようお願いいたします。尚、会議及び施設見学にご参加いただく際、利用者さんの個人情報に関しては十分配慮いたしますが、権利擁護の観点から知りえた情報を他者に漏らすことの無いよう、格別のご高配をお願いいたします。</p> <p>4, 法人の成り立ちと理念について(施設長)</p> <p>*パワーポイントにて説明</p> <p>(1) 成り立ち</p> <p>高知小鳩会はダウン症児者の親の会「(財)小鳩会 高知県支部」の役員有志が、親なき後の我が子の終の住処となるべくもう一つの家を作りたいという切なる願いによってできた施設です。従来の目的である障害者を保護し指導・訓練を行う施設ではなく、生活施設としてあじさい園はスタートしました。</p> <p>(2) 法人理念と三つの柱</p> <p>あじさい園は大きな集団とも言えますが、一般社会と大きくかけ離れた生活ではなく施設性を出</p>	

来る限り排除し、個別性を重んじ一人ひとりを大切にするという考え方のもと、職員も人生を共にする家族の一員として支援を構築してきました。

私たちは、支援の柱となるものを①美味しい食事 ②優しい職員 ③快適な環境と定め、何よりもこの3つをしっかりと守り実現していくことを目指してきました。

特に食事に関しては、親御さん達が給食ではない家庭の食事をイメージして議論を重ねてきたと聞いています。味はもちろんのこと食器は陶器やガラスを使用し、適時適温を重視したバラエティにとんだ食事はとても美味しく、職員も利用者と同じものを食べています。「同じ屋根の下で暮らし同じ釜のめしを喰う」という考え方は、設立当初から変わることなく続いています。

コロナ禍を経て、現在も感染対策の一環として職員と一緒に食事はできなくなりましたが、三食とも約1時間半という食事時間の設定の中、急がすことなく一人ひとりのペースで食事を楽しむことができるよう配慮しています。

優しい職員とは、利用者さんを一人の人として大切に、家族のような関係を目指すという意味を持ちます。環境面に関しては、とにかく施設臭をつくらない取組を徹底してきました。臭いがなく、明るく快適な環境は利用者さんの精神的な安定に結びついています。

「できるだけ普通に、可能な限り特別に」「利用者心地よい援助技術の習得に努め、心は常にアマチュアであろうとします」というこの二つの法人理念は、全ての支援に根付いています。

(3) 役員・組織

当法人の役員は、理事以外の評議員、監事13人の内6割以上が障害を持つ方の親御さんで構成されています。親の視点で運営するという理念がここに息づいています。組織体制としては、本部、総務部、入所部、通所部、その下に第一支援課（男性棟）、第二支援課（女性棟）、通所支援課、相談支援課、看護係という構成となっています。

(4) 法人事業とあじさい園の支援方針

あじさい園は法制度の変遷をとおして、現在は障害者総合支援法のもと生活介護と施設入所支援のサービスを組み合わせた障害者支援施設として運営しています。50名の入所定員ですが現在は39名が利用しています。その他の事業としては、短期入所事業（空床型）、生活介護事業所第二あじさい園、同じくこぼと作業所、あじさい園障害児者相談支援事業所を運営し、高知市の委託事業として高知市障害者相談センター西部に職員2名を配置しています。

あじさい園の職員の仕事は利用者さん一人ひとりの人生をお預かりするということです。食事や排せつ、入浴等日常生活動作に関わることはもちろんのこと、日中活動や環境整備などの間接的な支援、権利擁護、防災等多岐に渡ります。これらの支援を、ただ行うだけではなく利用者さんに「如何に届けるか」を私たちは重要視しています。我が事として考え親身に接することをベースとし、そこに知識や技術の専門性を併せ持つ職員を目指しています。

(5) 看取りをとおして

あじさい園が設立してから30年が経ちました。その中で、数名の方をあじさい園で看取りました。訪問診療を利用し、住み慣れた場所で、共に時間を過ごした仲間や職員に囲まれて終末期を過ごし告別式もあじさい園で執り行いました。

様々な課題はありますし十分なことはできなかったかもしれませんが、親なき後を心配されていた親御さんの切なる願いを叶えることができたものと思っています。

利用者さんの過去を知り、今に寄り添い、未来に責任をもつことが私たちの使命であると思っています。今後も利用者さん、そのご家族、職員が家族のような関係でいられるよう努力していきたいと考えています。

5, 施設見学

あじさい園本館（H7建設）、別館（H24建設）、第二あじさい園（H12建設）の居室、設備等案内。本館は30年が経過し、その間リフォームをしながら現状維持している。住まいの場となる環境を整えることは非常に重要であること等説明。

6, 感想及び質疑

構成員1

大変感じが良い施設で、穏やかな時間が流れている落ち着いた空間だと思いました。今まで県下の事業所を訪れる機会もありましたが、臭いを意識されて運営しているところは少ないのではないのでしょうか。あじさい園は利用者さんにとって快適なところだと思いました。利用者さんの印象は穏やかに過ごされていると思いました。

「できる限り普通に、可能な限り特別に」という法人理念に関しては、普通であることも難しいと思いますが、さらなる利用者さんに寄り添った特別を考えて接している素敵なお事業所だと思いました。

試食した昼食は味のメリハリがあり、大変優しいお味で美味しかったです。利用者さんの個性に合わせた細やかな提供が素晴らしいと思いました。

構成員2

組織体制など、医療法人とは違うと感じました。法人の成り立ちをお聞きして、手本や参考にしたいと思うところがありました。令和2年にコロナのクラスターが発生した際、全国から応援メッセージ等が届いたと聞いています。当時の前南理事長の記者会見を聴いて深く感じる場所がありました。

又、法人理念の話の中で「やさしい職員」とありましたが、やさしさをどのように伝えているのか聞かせて欲しいです。

*理事長

当時はとても大変な状況でしたが、ある日正門に「頑張れあじさい園」という手作りの黄色い旗が立てられていました。そこで世間の風向きが大きく変わったと思います。私たちにとって物凄い力となり励まされました。

*施設長

約10年前から、認知症ケアの技法と言われている「ユマニチュード」を取り入れています。ユマニチュードには「見る」「話す」「触れる」「立つ」という4つの柱があり、それぞれに技法があります。単に目に映る「見る」ではなく、適切な距離で相手の目を見つめる、穏やかに話しかける、優しく触れるなど、「あなたのことが大切です」というメッセージを送ることが優しさの根拠となるものです。

まだまだ不十分ですが、職員には利用者さんを「人として大切にする」と思えるようなコミュニケーションができるようになって貰いたいと思っています。

*支援課長

支援をする際に、ついつい手や言葉が先に出てしまいがちですが、優しい支援とはいかに待てるかだと思います。その人にあったペースに合わせる「待つ支援」が、とても重要だと考えています。

構成員 3

法人の成り立ちについて、改めて説明を受けました。他の保護者も知っておいて頂きたい内容だと思いました。施設の雰囲気や環境、利用者・職員の印象、昼食の献立や味も良好と思います。食事に関しては、法人の持ち出しもあるが少ない予算で頑張っていると思います。

構成員 4

あじさい園は楽しいです。職員さんは優しいです。

構成員 5

好き嫌いが多いですが、苦手なカツオのたたきは焼き魚にかえてもらっています。

